

川島

太古から文化の中心地

鬼怒川東岸に位置する川島地区では、太古より人が生活していた様子を伺うことができます。また、江戸時代には川島河岸^{かし}をはじめ鬼怒川の水運として栄えるなど、文化交流の地として賑わいました。今回は、そんな川島地区の太古から現代につながる文化について紹介します。

女方遺跡

鬼怒川東岸の台地上の女方地内にある女方遺跡。医学博士の田中國男氏が昭和14年から3年間をかけて発掘調査を行い、東日本で初めて弥生時代中期の再葬墓^{さいそうぼ}の存在が明らかにされるとともに、縄文時代と弥生時代の接合を知ることができました。昭和初期に本格的

な発掘調査が行われたのは非常にめずらしく、20m四方の範囲から密集した41基の再葬墓及び数基の埋甕^{うめがらみ}などが確認されました。なかでも、人面付壺形土器の発見と弥生時代中期頃の墓制の解明に大きく貢献しています。

古墳密集地

古墳時代には、川島地区でも、多くの古墳が築造されました。現存するのは神明塚、猫塚、弁天塚の3基のみですが、かつては女方48塚と呼ばれる古墳が散在していました。



①人面土器 (レプリカ)

川島駅前の人面土器のレプリカを描き受賞

「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展

日本ユネスコ協会連盟会長賞
藤木 ゆず さん (下館西中卒)



②猫塚古墳、弁天塚古墳



③神明塚古墳



明治時代中ごろの賑わいが伝わる銅版画

過去 川島河岸 現在



④川島河岸跡地周辺



上空からの映像はこちら

現在も川島に残る線路跡



⑤旧引込み線

鉄道用地だったことを意味する石杭が残っています。地図上の赤線部分が旧引込み線にあたります。



⑥旧川島立橋

江戸時代に幕府により行われた鬼怒川のインフラ整備。それにより大型の高瀬舟が上流まで航行可能になり、東北諸藩と江戸を結ぶ水上物流の要所として栄えました。人が集まることによりさまざまな地域との交流が生まれ、活気のある川島地区が形成。後世に鉄道が運行されると、川島の砂利を都市部へ運ぶなど、鉄道の物流拠点としても重要な役割を果たしました。

東北地方と江戸を結ぶ
経済の大動脈川島河岸